

# 諏訪の景気動向

2020年2月

(2020年1月末D・I調査)



立石公園と諏訪湖（諏訪市）

《2020年2月28日》

## 諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

電話 0266-23-4567(代) FAX 0266-23-8044

## 諏訪地方の景気動向（2020年1月末調査）

「2020年1月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 191 社のご協力を得て行った 2020 年 1 月末の「景気動向調査 (DI 調査)」は、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 DI は  $\Delta 19.9$  となった。前回調査時 (2019 年 10 月末、以下同) の  $\Delta 21.0$  より 1.1 ポイント改善した。前年同月比でも前回の  $\Delta 36.4$  から  $\Delta 26.2$  へ改善した。「3 ヶ月前」と比べた製造業の業況判断 DI は  $\Delta 24.8$  で、前回の  $\Delta 18.8$  より悪化した。非製造業 (商業、観光・サービス業、建設業) の同 DI が  $\Delta 10.6$  で、台風 19 号の影響で大幅悪化した前回の  $\Delta 25.8$  から改善した。「3 ヶ月後」の業況予想 DI は、製造業が 0.0 (前回  $\Delta 6.1$ ) と改善し、非製造業も  $\Delta 3.0$  (前回  $\Delta 22.6$ ) と改善し、回答全社では  $\Delta 1.0$  (前回  $\Delta 11.3$ ) となった。

2020 年は、米国とイランの対立激化で幕を開け、東京市場は大発会としては過去 4 番目の下げ幅を記録した。また、1 月末には英国が EU を離脱した。1 月下旬からは、中国で発生した新型コロナウイルスによる肺炎の感染拡大問題が急浮上し、世界経済減速への警戒感が広がった。中国政府が、国民の海外への団体旅行を禁止したことで、来訪予定だった中国人観光客のキャンセルが発生するなど、諏訪地方にも影響が出始め、多くの企業が先行きに不安感を募らせている (関連 3P)。

**製造業**は、「3 ヶ月前」との比較で業況判断では 10.4% の企業が好転し、35.2% の企業が悪化した。受注状況 DI を見ると、やや改善した前回の  $\Delta 18.8$  から今回は  $\Delta 29.6$  に再び悪化した。売上 DI も前回の  $\Delta 18.8$  から  $\Delta 25.6$  へ悪化し、収益性 DI も前回の  $\Delta 17.3$  から  $\Delta 27.2$  へ悪化した。前年同期比は前回同様、悪化傾向が続いている。依然、米中貿易摩擦をきっかけとした世界経済減速の影響が大きい。一方、米中貿易協定の第一段階の合意や半導体市場の底入れの兆しなどから、先行きへの期待感があり、「3 ヶ月後」の業況予想 DI は 0.0 と前回の  $\Delta 6.1$  から改善し、売上 DI、受注状況 DI も改善している。ただ、新型肺炎の影響が新たな懸念材料となり、不透明感が強まっている。

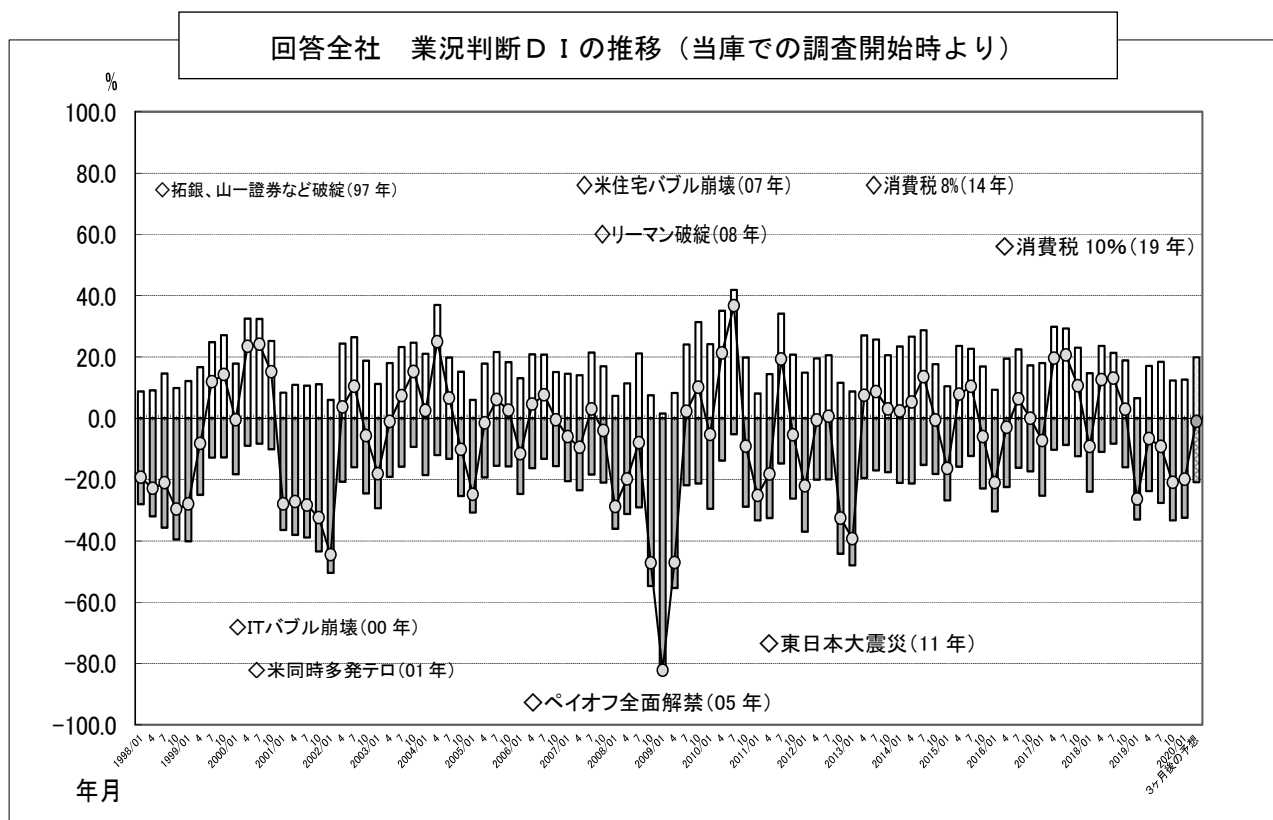
**商業**は、消費増税による駆け込み需要の反動減や台風の影響があった「3 ヶ月前」と比べ、業況判断 DI は 0.0 で前回の  $\Delta 29.4$  から改善した。来店客数 DI が前回の  $\Delta 38.2$  から  $\Delta 3.3$  へ改善し、客単価 DI も前回の  $\Delta 11.8$  から  $\Delta 12.9$  へ改善した。「前年同期」との比較でも業況判断 DI は  $\Delta 22.6$  で、大幅悪化した前回の  $\Delta 47.0$  からは改善している。消費増税の影響は、「3 ヶ月前」に比べて「好転」した企業は 9.7% で、「悪化」した企業が 32.3% とマイナス水準ながら前回より改善し、影響が薄れてきている。ただ、暖冬の影響で冬物商品の動きは鈍かった。「3 ヶ月後」の予想は、来店客数 DI が前回の  $\Delta 20.6$  から  $\Delta 3.2$  と改善し、業況判断 DI は前回の  $\Delta 17.6$  から 0.0 と好転予想が増えている。

**観光・サービス業**は、かき入れ時の 10 月に発生した台風 19 号が大打撃となった「3 ヶ月前」と比較した業況判断 DI は  $\Delta 16.6$  で、前回の  $\Delta 45.4$  から改善した。台風の影響からの回復に加え、旅行需要の早期回復と観光消費喚起を目的とした「長野県ふっこう割事業」の特需や雪不足の地域から流入したスキー客の取り込みが要因。「前年同期比」でも業況判断 DI は 33.3 で、前回の  $\Delta 54.5$  から大幅に好転している。春に向かう「3 ヶ月後」の業況判断予想 DI は、16.6 で前回の  $\Delta 9.1$  より改善しているが、例年の同時期の動きに比べると、好転予想は少な

い。新型コロナウイルスの拡大による主に外国人観光客の動きが不透明な上、製造業への影響があった場合の景気減速などが懸念材料となっている。

**建設業**は、「3ヵ月前」と比べた業況判断DIは△21.7で前回の△5.9から悪化した。受注状況DIが△56.5で前回の△17.7から悪化している。「3ヵ月後」の業況予想DIは△17.4で、前回の△41.2から改善した。諏訪地方の2019年12月の新設住宅着工戸数は122戸で、前年同月比30戸増加(32.6%)した。2019年4月～12月の累計着工戸数は896戸で、前年同期比5戸増加(0.6%)した。2020年1月の市町村からの受注工事は合計57件675百万円で、前年同月比で件数は5件増加し、契約金額は32百万円増加した。2019年4月～2020年1月に地元業者が受注した国県関係の公共工事の累計は152件7,406百万円で、前年同期より37件3,468百万円増加(88.1%)している。

**雇用状況**は、2019年12月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.40ポイント下回り、前月を0.02ポイント上回る1.41倍だった。今年度に入り、9ヵ月連続で前年同月を下回っている。1倍台の維持は69ヵ月連続となっている。長野県内は1.50倍で、製造業を中心に求人数が減少傾向となっている。全国は1.57倍だった。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,535人で前年同月比27人減少(△1.7%)し、新規求職者数は692人で前年同月比91人増加(15.1%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、飲食店・宿泊業で124.0%、運輸業で61.5%増加したが、生活関連サービス・娯楽業で32.9%減少した。求人の要因別は、「継続する人員不足」「業務量増大」「欠員補充」「創業・新分野展開」の順となっている。1件10人以上の人員整理は1件だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は40人で、前年同月より23人増加し、前月より10人増加した。



## 新型肺炎拡大の諏訪地方への影響

中国で発生した新型肺炎の拡大は、諏訪地方の企業にも大きな懸念となっている。製造業は、従業員などが罹患した企業はないが、中国に工場がある企業は休業延長で生産が滞った。中国からの部品の供給が止まったり、中国で行う予定の業務が中止になるなどの混乱が見られる。インバウンドによる売上が大きい取引先からの受注が、春節の中国人の訪日が不調に終わったことで激減した企業もある。地元企業の海外出張や一般の海外旅行のキャンセルは大幅に増加している。また、生産現場では、業務に欠かせないマスクやグローブなど保護具の欠品が深刻な企業がある。反面、サプライチェーン(部品供給網)の乱れの代替需要で、急な発注を受けた企業がある。中国国内の物流が滞り、スポット的に日本に部品の発注がある。

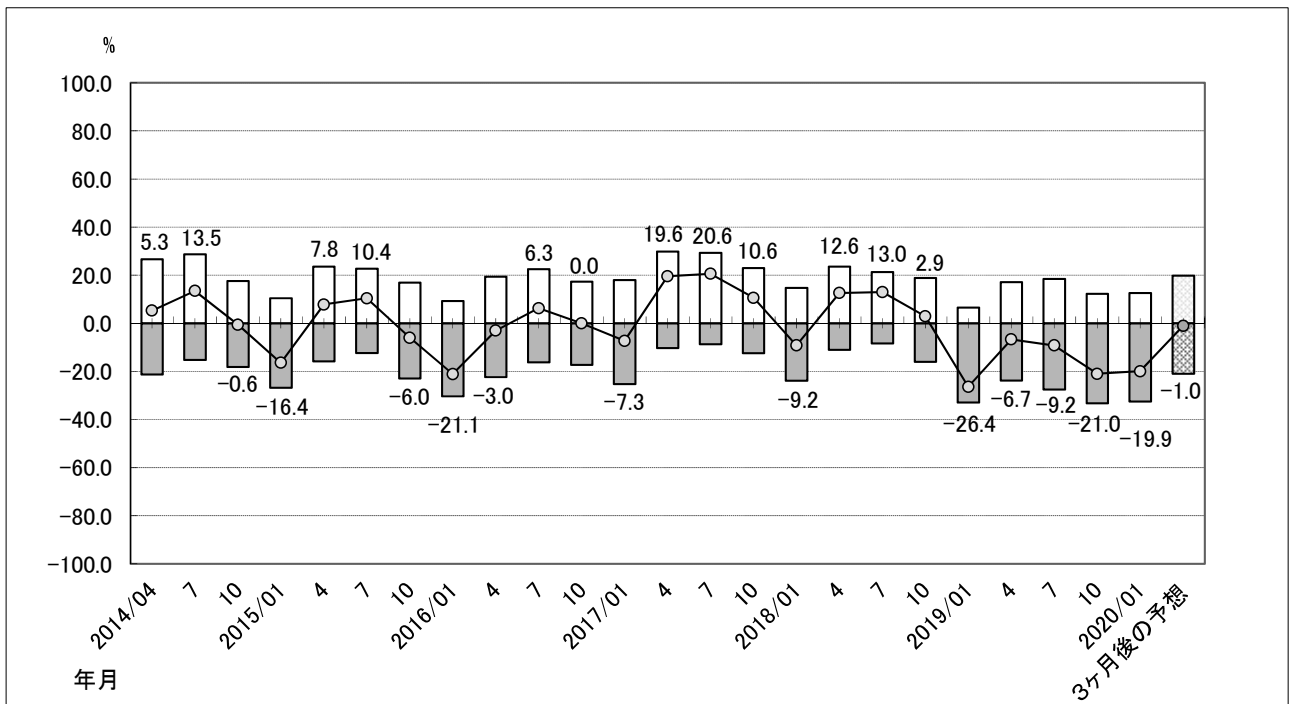
先行きに対しては多くの企業が不安感を抱いている。中国工場の稼働には危機感があり、部品加工を中国に発注している企業は、今後の材料や備品の品薄、価格高騰、納品遅れなどを懸念する。大手メーカーの生産調整も危惧されている。サプライチェーンの乱れは、受注が一気に減少する危険性があり「現在影響はないが、下請け企業は、取引先でどのような影響が出てくるか今後の経過を見ないと分からない」という声がある。

観光業では、中国のスキーブームで団体客を受け入れる予定だった宿泊施設で、100人規模のキャンセルがあった。宿泊予定者からは、中華系の人々の予約状況に関する照会が相次いでいる。国内旅行でもウイルス感染を危ぶんだキャンセルが発生し、春以降の動向が危惧される。商業では観光地の店舗で、従業員のマスク使用や除菌スプレー設置、レジ周辺の除菌シートでのふき取りなどを行っている大型店がある。量販店や薬局などでは、マスクの品薄状態が続いた。消費者が外出を控える動きになり、客足への影響が懸念されている。建設業でも「施主の動向がまだわからないが、今後、発注に影響が出る可能性はある」とする企業がある。

### 自社業況判断DIの推移

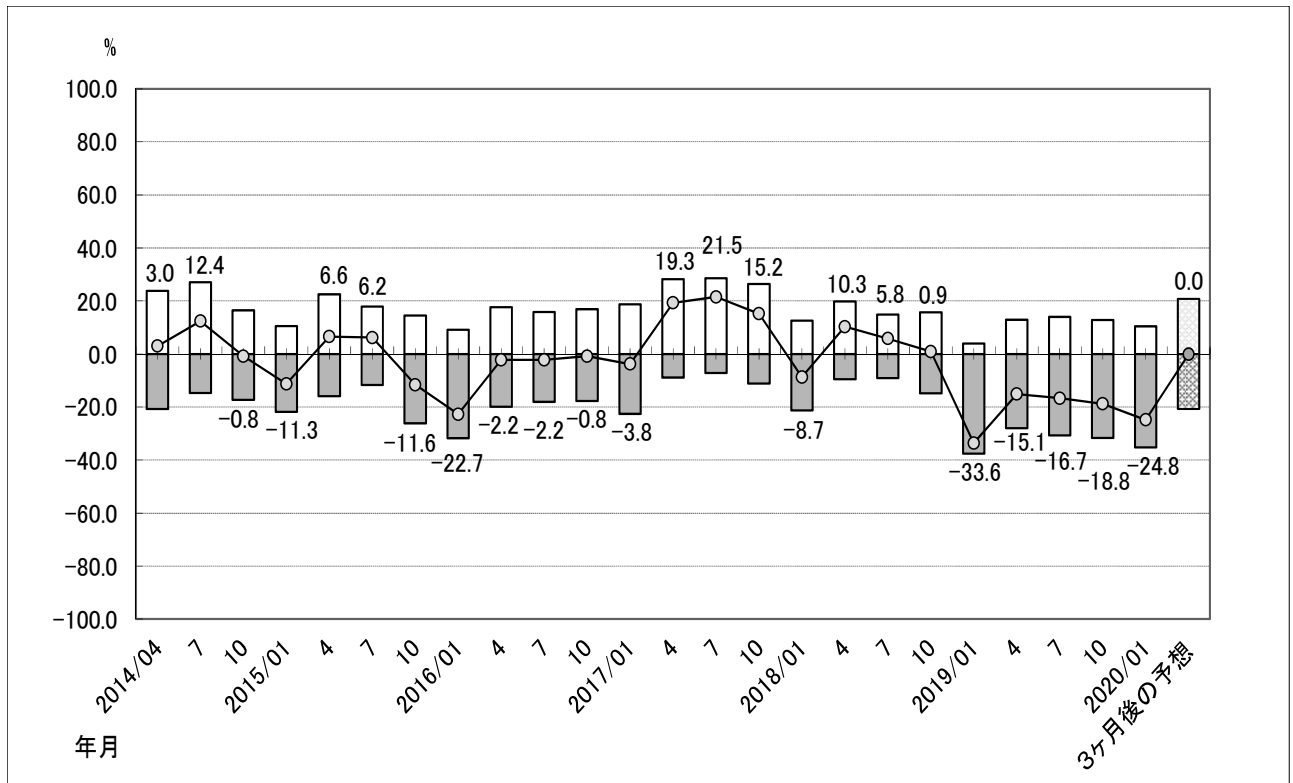
#### 回答全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー1



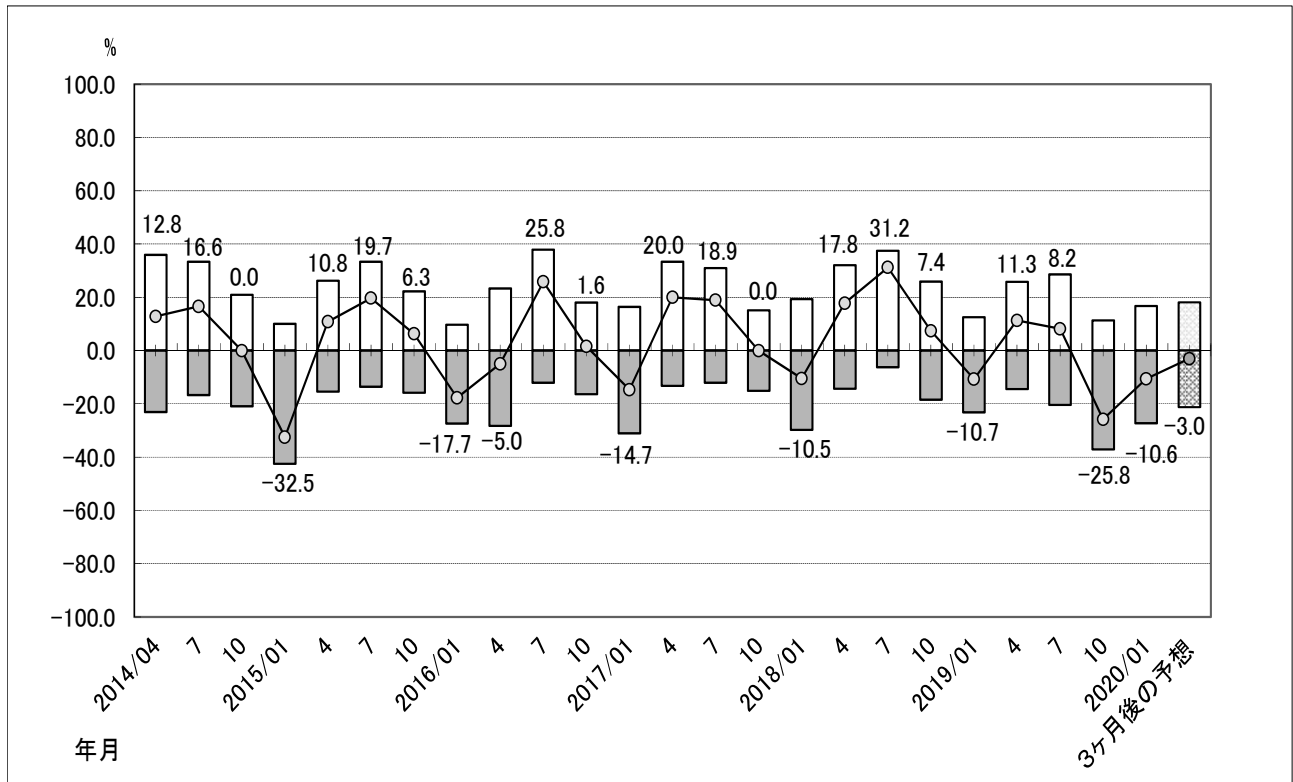
●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



## 産業別景気動向

### 1.製造業

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ△24.8で、前回の△18.8から悪化した。「前年同期比」は、好転企業がやや増加したが、悪化企業も増加したため、△37.6で前回と同水準だった。「3ヵ月後」の予想は0.0で、前回の△6.1から改善した。

設備投資DIは、「3ヵ月前」に比べて2.4で前回の5.2より悪化した。「前年同期比」も前回の7.6から3.2へ悪化した。先行きの不確定要素が多く、設備投資をためらう企業もあるが、いずれもプラス水準で「3ヵ月後」の予想DIは4.8で、前回の2.3から改善した。

収益性DIは、「3ヵ月前比」で△27.2と前回の△17.3から9.9ポイント悪化し、「前年同期比」も前回の△33.8から△36.0へ2.2ポイント悪化した。一方、「3ヵ月後」の予想は2.4で、前回の△13.6から改善した。

業種別(主要5業種)の業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて、「金属製品」は△18.9(前回△10.5)、「精密機械」が△18.2(同△15.4)、「電気機械」が△19.0(同△13.7)と悪化し、「一般機械」が△19.4(同△25.8)、「輸送用機械」は△45.5(同△46.2)と改善した。

「前年同期比」では、「金属製品」が△35.1(同△42.1)、「電気機械」は△23.9(同△31.8)と改善し、「輸送用機械」は△54.5(同△53.8)、「精密機械」は△63.6(同△61.5)と悪化した。「一般機械」は△32.3で前回と同率だった。

「3ヵ月後」の予想DIは「金属製品」は10.8(同5.3)、「輸送用機械」が0.0(同△46.2)、「一般機械」は△6.4(同△9.7)、「精密機械」も△9.1(同△15.4)と改善し、「電気機械」が0.0(前回4.6)と悪化した。

消費増税の影響は「3ヵ月前」に比べて好転企業はなく、悪化企業が16.8%だったが、大部分が横這で推移している。また、米中貿易摩擦の影響は70.4%の企業が多大または多少あると回答しており、依然大きな不安定要因となっている。加えて、新型肺炎が先行きの不透明感を強めている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-1

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	125	10.4	54.4	35.2	-24.8	125	15.2	32.0	52.8	-37.6	125	20.8	58.4	20.8	0.0	
規模	1~29人	67	7.5	55.2	37.3	-29.8	67	9.0	40.3	50.7	-41.7	67	11.9	65.7	22.4	-10.5
	30~99人	42	16.7	50.0	33.3	-16.6	42	26.2	16.7	57.1	-30.9	42	38.1	40.5	21.4	16.7
	100人~	16	6.3	62.5	31.3	-25.0	16	12.5	37.5	50.0	-37.5	16	12.5	75.0	12.5	0.0
分類	金属製品製造業	37	10.8	59.5	29.7	-18.9	37	10.8	43.2	45.9	-35.1	37	29.7	51.4	18.9	10.8
	一般機械器具製造業	31	16.1	48.4	35.5	-19.4	31	25.8	16.1	58.1	-32.3	31	19.4	54.8	25.8	-6.4
	電気機械器具製造業	21	14.3	52.4	33.3	-19.0	21	19.0	38.1	42.9	-23.9	21	14.3	71.4	14.3	0.0
	輸送用機械器具製造業	11	0.0	54.5	45.5	-45.5	11	0.0	45.5	54.5	-54.5	11	18.2	63.6	18.2	0.0
	精密機械器具製造業	11	9.1	63.6	27.3	-18.2	11	9.1	18.2	72.7	-63.6	11	9.1	72.7	18.2	-9.1

## ① 諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

### ● 金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ $\Delta 18.9$ で、前回調査時の $\Delta 10.5$ から悪化した。「前年同期比」は $\Delta 35.1$ で前回の $\Delta 42.1$ よりは縮小したが、依然低水準で推移している。一方、「3ヵ月後」の予想は10.8で前回の5.3から好転した。自動車メーカー向けは軒並み落ち込んでおり、例年と異なる動きになっている。景気減速で、受注は短納期、小ロット傾向となっている。

### ● 一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて $\Delta 19.4$ で、前回の $\Delta 25.8$ から改善したが、「前年同期比」は $\Delta 32.3$ で、前回と同率だった。「3ヵ月後」の予想は $\Delta 6.4$ で、前回の $\Delta 9.7$ から改善した。日本工作機械工業会発表の1月の受注額は、前年同月比16ヵ月連続マイナスで低調な状態が続いている。FA(工場自動化)関連は、自動車業界が設備投資を抑制している影響が大きい。半導体向けは5G関連で需要が顕在化し一部底入れしたが、ここで新型肺炎への警戒感が強まっている。

### ● 電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは「3ヵ月前比」で $\Delta 19.0$ と前回の $\Delta 13.7$ から悪化し、「前年同期比」は $\Delta 23.9$ で前回の $\Delta 31.8$ から改善した。一方、「3ヵ月後」の予想は0.0で前回の4.6から悪化した。電子部品は、米中貿易摩擦などで自動車や産業機械向けの需要が落ち込んだ。5G実用化が追い風になりつつある一方で、新型肺炎の感染が広がり、先行き不透明感が増している。五輪村の照明器具に使われるLED電源部品は好調。

### ● 輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて $\Delta 45.5$ で、前回の $\Delta 46.2$ からやや改善したが、依然低調に推移している。「前年同期比」は $\Delta 54.5$ で、前回の $\Delta 53.8$ から悪化幅が広がった。一方、「3ヵ月後」の予想は0.0で、前回の $\Delta 46.2$ から大幅に改善している。自動車部品関連はメーカーによって差がある中で、新型肺炎の感染拡大で中国の工場の生産停止が長引き、世界の自動車生産に影響が出てきた。モーターや減速機は、5Gインフラ整備やその対応製品で設備投資需要が出て、一部で回復の兆しがある。

### ● 精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて $\Delta 18.2$ で、前回の $\Delta 15.4$ から悪化し、「前年同期比」は $\Delta 63.6$ で前回の $\Delta 61.5$ より悪化した。「3ヵ月後」の予想は $\Delta 9.1$ で前回の $\Delta 15.4$ より改善した。中国のカメラ市場が縮小し、小ロット多品種の傾向になっている。半導体製造装置関連や精密検査器のレンズなど、高度な研磨技術が必要な分野の見積もり依頼は増加している。

## ② 規模別業況

業況判断DIは、「3ヵ月前」と比べて「1~29人」規模は前回の $\Delta 22.5$ から $\Delta 29.8$ へ悪化し、「30~99人」規模も前回の $\Delta 11.6$ から $\Delta 16.6$ へ悪化した。「100人以上」規模も前回の $\Delta 21.1$ から $\Delta 25.0$ へ悪化した。

「前年同期比」は「1～29 人」規模が前回の△42.2 から△41.7、「30～99 人」規模は前回の△32.5 から△30.9 へわずかながら改善したが、「100 人以上」規模は、前回の△31.6から△37.5 へ悪化した。一方、「3 ヶ月後」の予想は、「1～29 人」規模が前回の△14.1 から△10.5 へ改善し、「30～99 人」規模は前回の△2.3 から 16.7 へ大幅改善した。「100 人以上」規模は前回の 15.8 から 0.0 へ悪化した。

### ③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3 ヶ月前」と比べて受注状況DIは「増加」企業 14.4%、「減少」企業 44.0%で△29.6 と、前回調査時の△18.8 から悪化した。「前年同期比」は△42.4 で前回の△44.4 からやや改善した。「3 ヶ月後」の予想も前回の△9.8から△3.2 へ改善した。

規模別の受注状況DIは、「3 ヶ月前」と比べて「1～29 人企業」は△34.4 で前回の△19.7から悪化し、「30～99 人企業」も△19.1 で前回の△18.6から悪化した。「100 人以上企業」は△37.5 で前回の△15.7から悪化した。「前年同期比」は「1～29 人企業」が△44.8で前回の△47.8からやや改善し、「30～99 人企業」は△38.1で前回の△44.1から改善した。「100 人以上企業」は△43.7で前回の△31.5から悪化した。「3 ヶ月後」の予想は「1～29 人企業」が△16.5 で前回の△19.7から改善し、「30～99 人企業」は 14.3 で前回の 0.0 から改善し、「100 人以上企業」も 6.3 で前回の 5.2 から改善した。

業種別(主要 5 業種)の「3 ヶ月前比」は、「輸送用機械」が前回の△46.2 から△45.4、「電気機械」は△22.7 から△19.0 へ改善したが、「精密機械」が前回の△15.4 から△45.4、「一般機械」は△16.1 から△25.8、「金属製品」が△13.1 から△16.2 へ悪化した。「前年同期比」では、「金属製品」が△55.2 から△37.9、「輸送用機械」が△61.5から△54.5、「精密機械」は△76.9から△72.7と改善したが、「電気機械」は△31.8から△33.3 へ悪化した。「一般機械」は△35.4 から△35.5 でほぼ同水準だった。「3 ヶ月後」の予想は「金属製品」は△5.2 から 2.7、「輸送用機械」は△53.8 から 0.0、「一般機械」が△6.5 から△3.3 へ改善したが、「電気機械」が 13.6 から△9.5、「精密機械」は△7.7 から△9.1 へ悪化した。

業種別・規模別受注状況表

表-2

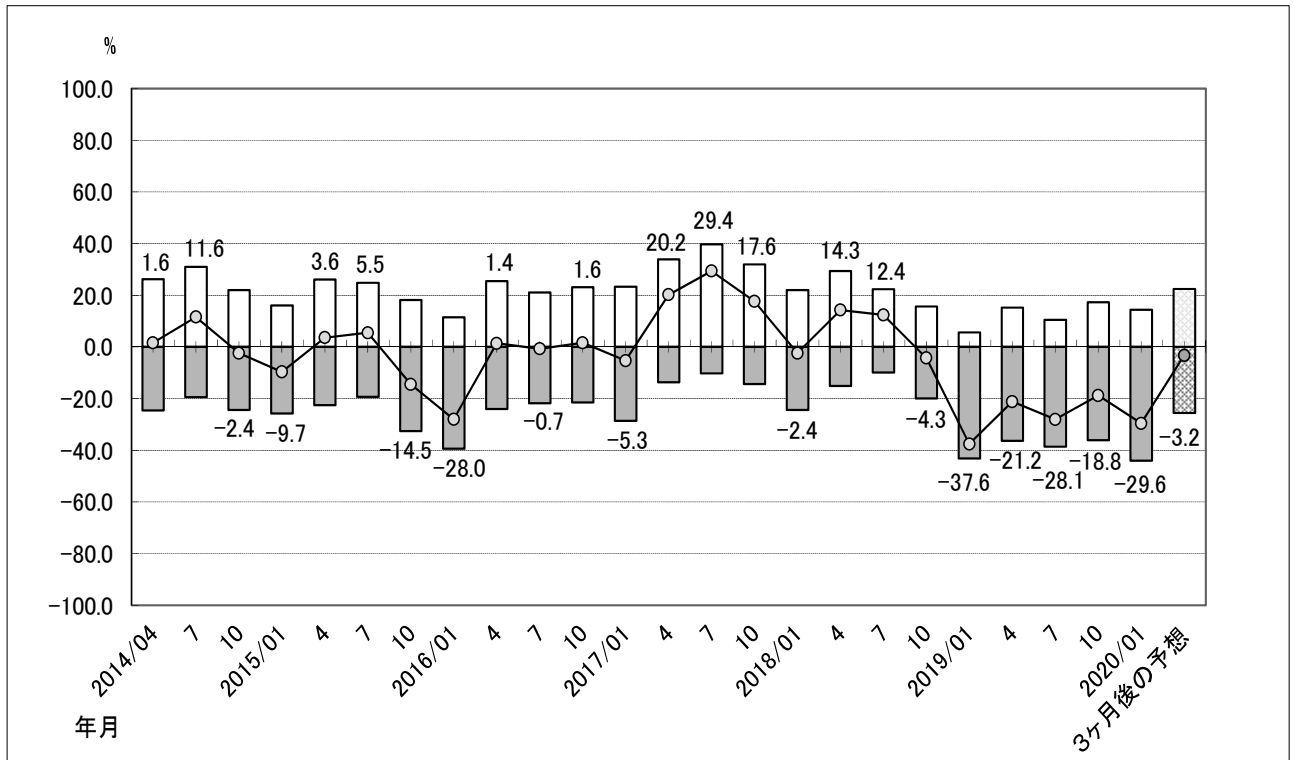
	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	125	14.4	41.6	44.0	-29.6	125	17.6	22.4	60.0	-42.4	125	22.4	52.0	25.6	-3.2	
規模	1～29人	67	10.4	44.8	44.8	-34.4	67	13.4	28.4	58.2	-44.8	67	13.4	56.7	29.9	-16.5
	30～99人	42	21.4	38.1	40.5	-19.1	42	23.8	14.3	61.9	-38.1	42	38.1	38.1	23.8	14.3
	100人～	16	12.5	37.5	50.0	-37.5	16	18.8	18.8	62.5	-43.7	16	18.8	68.8	12.5	6.3
分類	金属製品製造業	37	18.9	45.9	35.1	-16.2	37	16.2	29.7	54.1	-37.9	37	24.3	54.1	21.6	2.7
	一般機械器具製造業	31	19.4	35.5	45.2	-25.8	31	25.8	12.9	61.3	-35.5	31	29.0	38.7	32.3	-3.3
	電気機械器具製造業	21	14.3	52.4	33.3	-19.0	21	23.8	19.0	57.1	-33.3	21	14.3	61.9	23.8	-9.5
	輸送用機械器具製造業	11	9.1	36.4	54.5	-45.4	11	0.0	45.5	54.5	-54.5	11	18.2	63.6	18.2	0.0
	精密機械器具製造業	11	9.1	36.4	54.5	-45.4	11	9.1	9.1	81.8	-72.7	11	9.1	72.7	18.2	-9.1



製造業の受注状況DIの推移

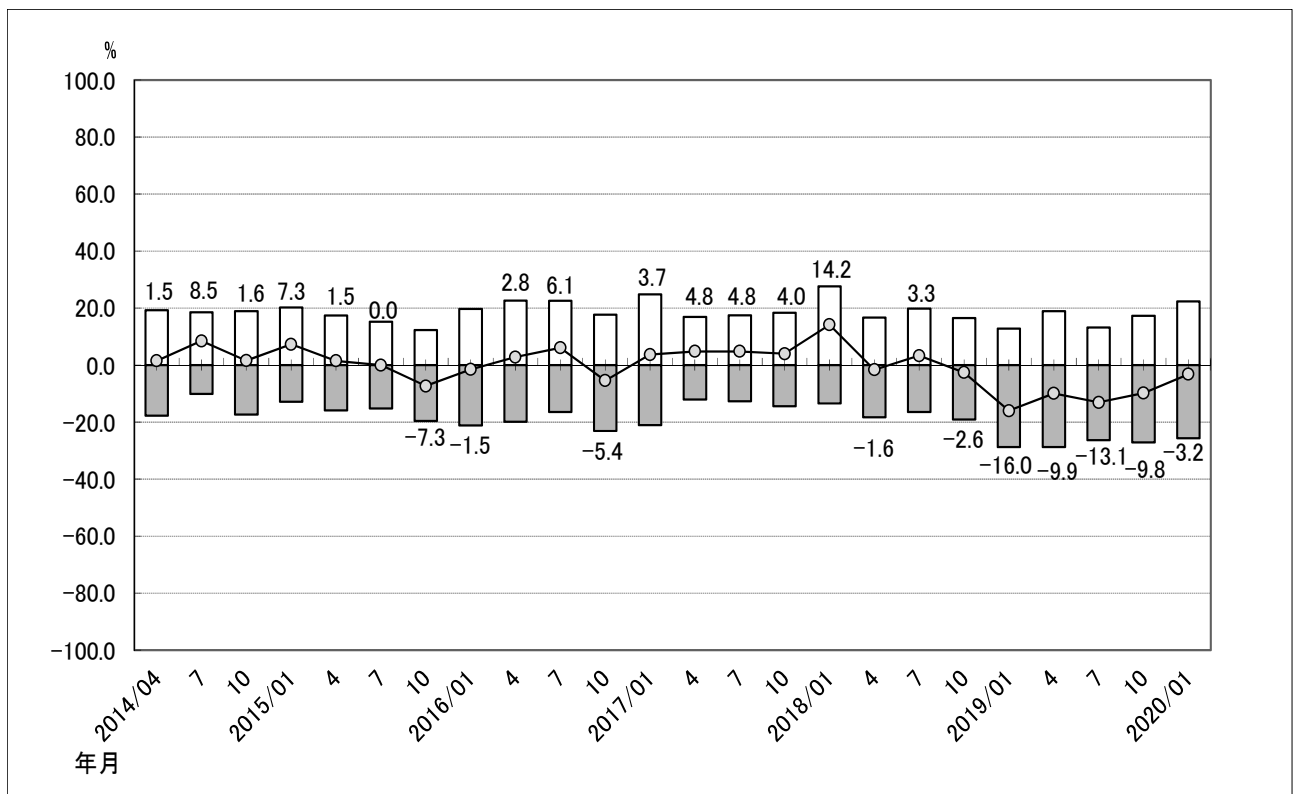
●製造業全社:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



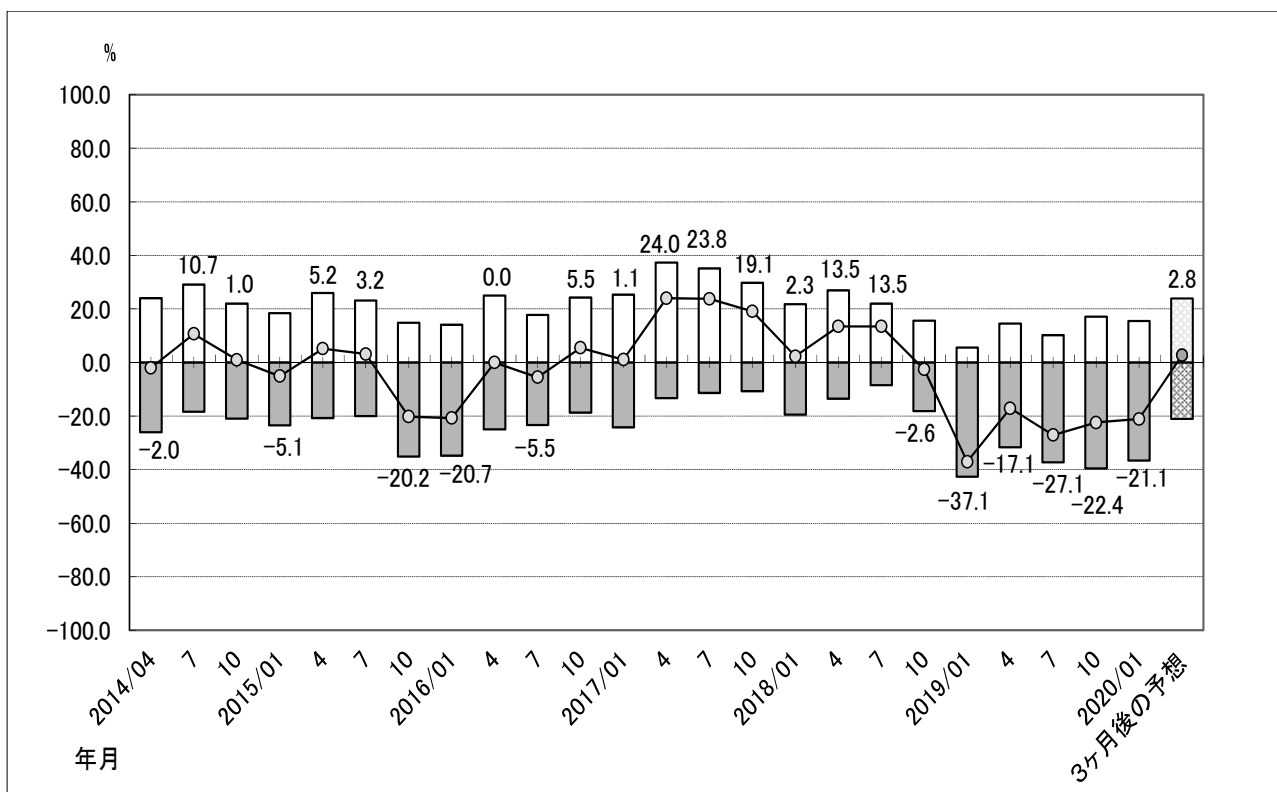
●製造業全社:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



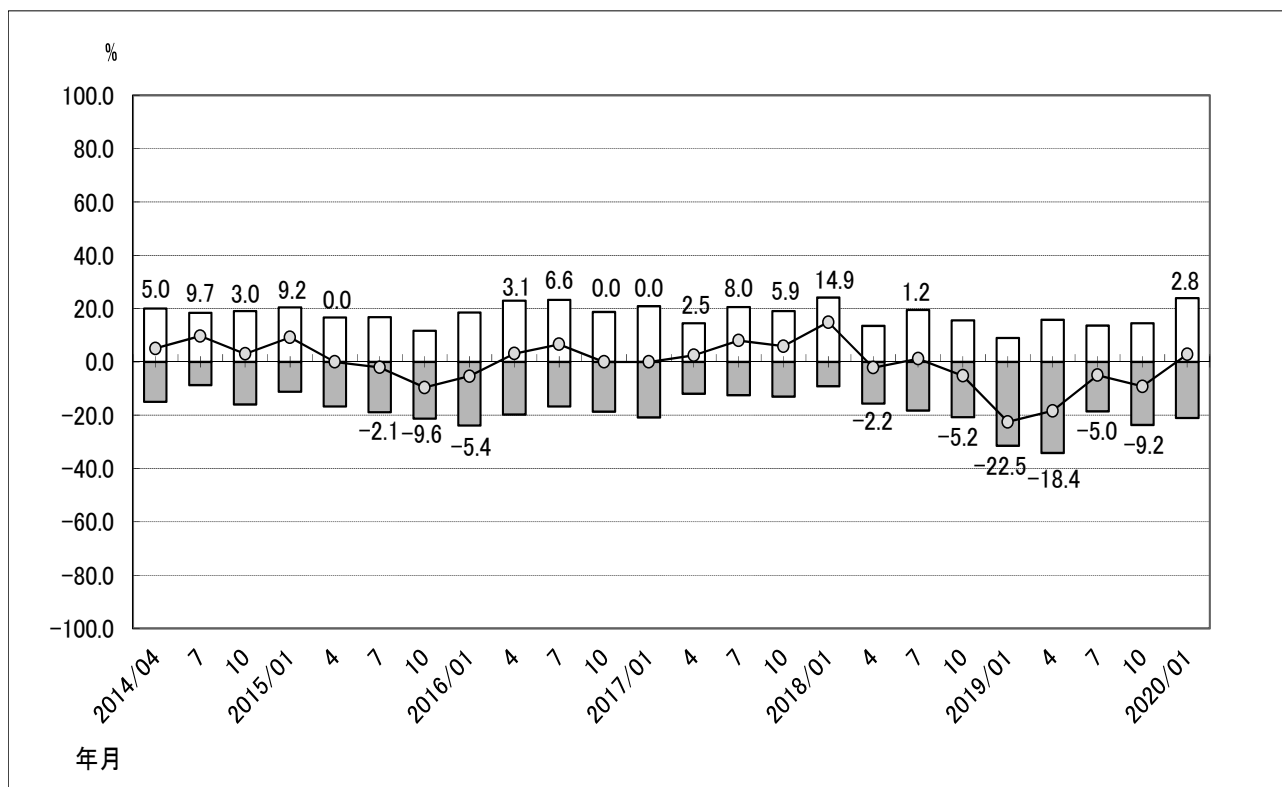
●製造業 主要5業種:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



## 2. 商業・観光サービス業

### ① 商業

「前年同期比」の来店客数DIは△12.9 と、大幅悪化した前回の△50.0 から改善し、売上DIも前回の△47.1 から△22.5へ改善した。消費増税の影響は薄れつつあるが、記録的な暖冬で業種によって業況が異なる。新型コロナウイルス拡大の影響で、マスクが爆発的な売れ行きとなった。

- 大型店 増税や暖冬の影響でコートなどの厚手の服をはじめ、衣料品が大幅に落ち込み、融雪剤も低調だった。
- 自動車 諏訪地方の1月の車庫証明件数(軽自動車除く)が856件で、前年同月比では45件増加(5.6%)した。
- 書店 コミック「鬼滅の刃」が売上を伸ばしている。新学期から学習指導要項の改定があり、小学5～6年の英語の授業義務化も加わるため、売上増加が期待される。
- 飲食店 雪が少なく気温が高かったため、来店客が増加した。鍋料理の注文は少なかった。
- コンビニ マスクやアルコール消毒液などの欠品が続いた。
- 野菜直売所 冬野菜は、白菜などの葉物が暖冬で供給量が多く、価格が下がった。地元産ホウレンソウの生育も早く、本来の販売時期より前倒しになった。

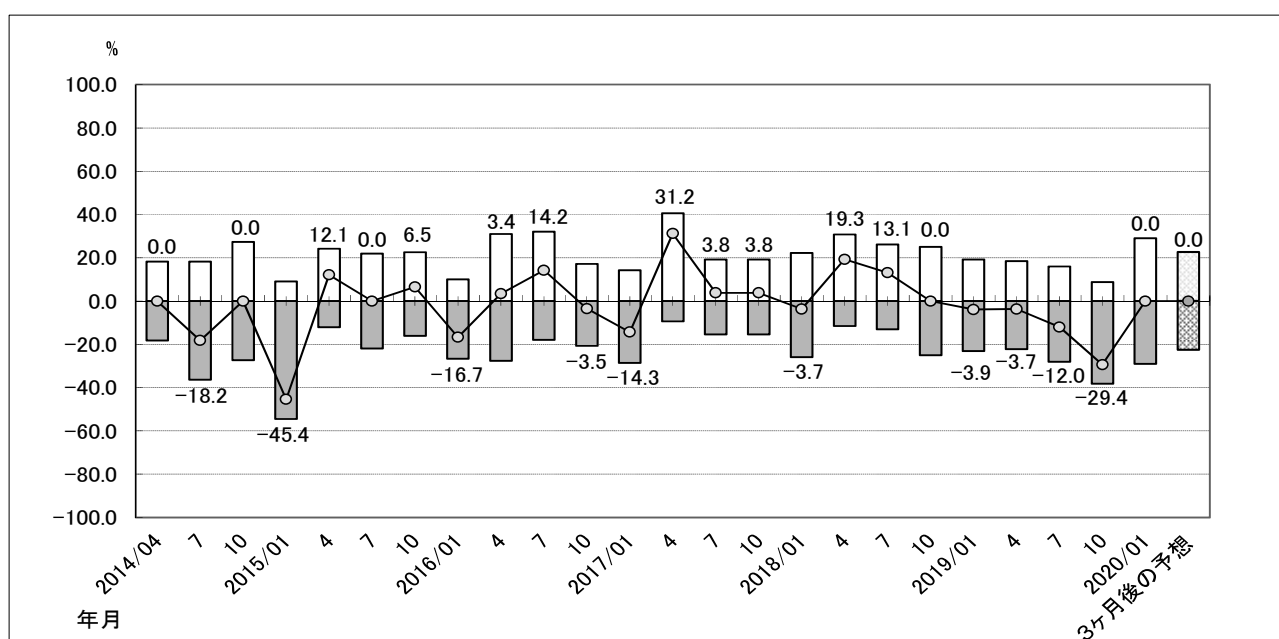
業況、客単価、来店客数

表-3

	3か月前と比べて					前年同期と比べて					3か月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	31	29.0	41.9	29.0	0.0	31	16.1	45.2	38.7	-22.6	31	22.6	54.8	22.6	0.0
客単価	31	22.6	67.7	9.7	12.9	31	29.0	64.5	6.5	22.5	31	6.5	83.9	9.7	-3.2
来店客数	31	29.0	38.7	32.3	-3.3	31	22.6	41.9	35.5	-12.9	31	25.8	45.2	29.0	-3.2

### ●商業全社:「3か月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



## ② 観光・サービス業

「前年同期比」で宿泊客数DIは△8.3で、前回の△36.3から改善した。スキー場では雪不足の他地域に比べてゲレンデ状況が良く、前半は利用者が前年より多かったが、下旬からは新型コロナウイルスの影響でキャンセルが相次ぎ腰折れした。集団行動を敬遠してツアーの企画を自粛する動きもあり、感染拡大で旅行や宿泊、飲食を控える動きになることが懸念される。「今冬は正月の好調さから一転し、厳しいシーズンとなりそう」という声がある。

- 上諏訪温泉 「ふっこう割」による特需を取り込んだ。被災した東信地域に次いで、諏訪地区での利用が多くなっている。また、上諏訪温泉「冬の宿泊キャンペーン」も利用者が増えている。新型コロナウイルスは1月中は影響がなかったが、今後は不透明。
- 下諏訪温泉 御神渡りの出現がなかったものの、暖冬で降雪がなく宿泊状況は安定していた。
- 蓼科・白樺湖 楽天トラベルの「2019 年度シニアに人気の温泉地ランキング」で二位になった蓼科温泉は、新規客からの予約問い合わせが増加した。新型コロナウイルスは、施設単位で体温計や消毒剤の拡充を行ったが、マスクの調達が困難だった。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた1月の参拝者数は約40万1千人で、前年同月比約7千人増加(1.9%)した。

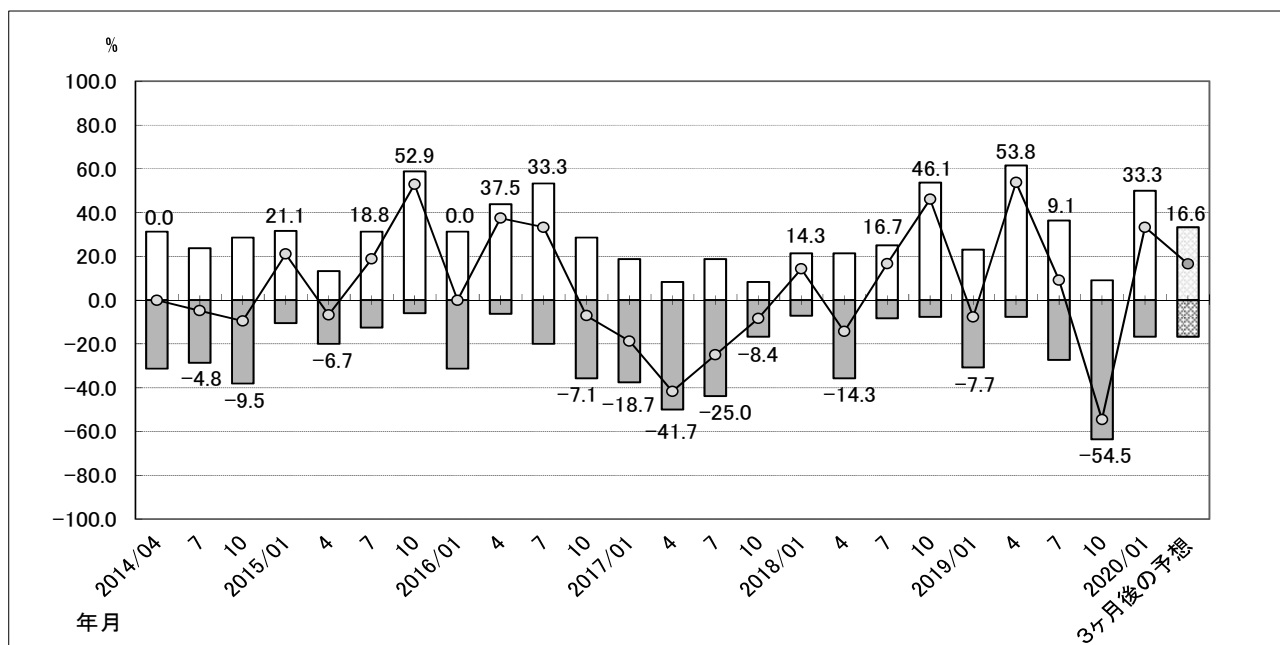
業況、売上、宿泊客

表-4

	3カ月前と比べて					前年同期と比べて					3カ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	12	16.7	50.0	33.3	-16.6	12	50.0	33.3	16.7	33.3	12	33.3	50.0	16.7	16.6
客単価	12	0.0	66.7	33.3	-33.3	12	25.0	75.0	0.0	25.0	12	16.7	83.3	0.0	16.7
宿泊客数	12	8.3	41.7	50.0	-41.7	12	16.7	58.3	25.0	-8.3	12	50.0	41.7	8.3	41.7

## ●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



### 3.建設業

「3ヵ月前」と比べた収益性DIは△34.8 で前回の△17.6 から悪化し、外注発注量DIも△47.9 で前回の0.0 から悪化した。資金繰りDIも前回の△11.8から△26.1へ悪化した。「前年同期比」では、業況判断DIは0.0で前回の5.8から悪化し、受注状況DIは前回の0.0から△4.3へ悪化した。「3ヵ月後」の予想DIは、受注状況が△26.1で前回の△41.2から改善し、業況判断も△17.4で前回の△41.2から改善した。諏訪地方の2019年4月～12月の新設住宅着工戸数は持家541戸、貸家236戸、分譲115戸、給与4戸で、合計896戸となり、前年同期比で5戸、0.6%増加した。1月～12月は1,147戸で、前年同期比47戸減少(△3.9%)した。

#### ●建築工事

諏訪地方の2019年12月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市32戸、諏訪市17戸、茅野市53戸、諏訪郡20戸の合計122戸だった。長野県全体の12月の新設住宅着工戸数は1,107戸で、前年同月比2.6%減少した。持家は3ヵ月連続の減少、貸家は3ヵ月連続の増加、分譲は5ヵ月連続の減少となった。

#### ●公共工事

2020年1月の市町村からの受注工事は、建築工事0件、土木・水道工事50件653百万円、その他工事7件22百万円だった。公共工事の発注は例年より多い。

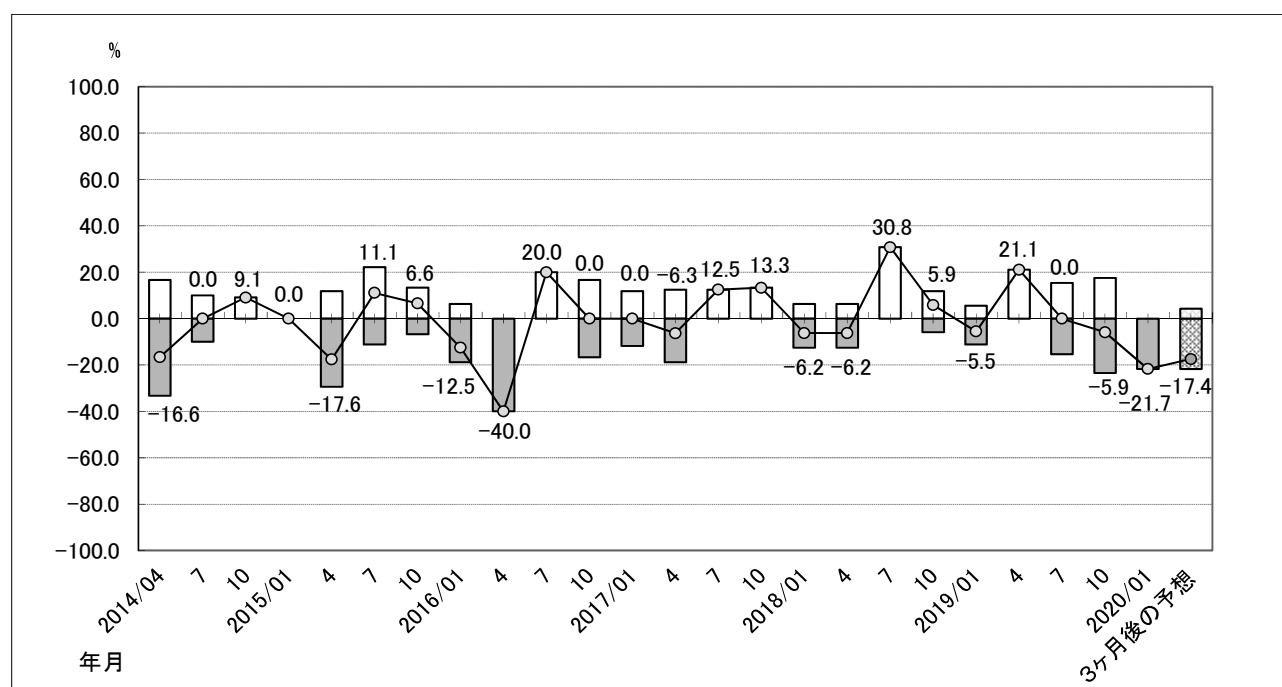
業況、受注状況、外注発注量

表-5

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	23	0.0	78.3	21.7	-21.7	23	13.0	73.9	13.0	0.0	23	4.3	73.9	21.7	-17.4
受注状況	23	0.0	43.5	56.5	-56.5	23	26.1	43.5	30.4	-4.3	23	4.3	65.2	30.4	-26.1
外注発注量	23	4.3	43.5	52.2	-47.9	23	21.7	39.1	39.1	-17.4	23	8.7	56.5	34.8	-26.1

#### ●建設業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10

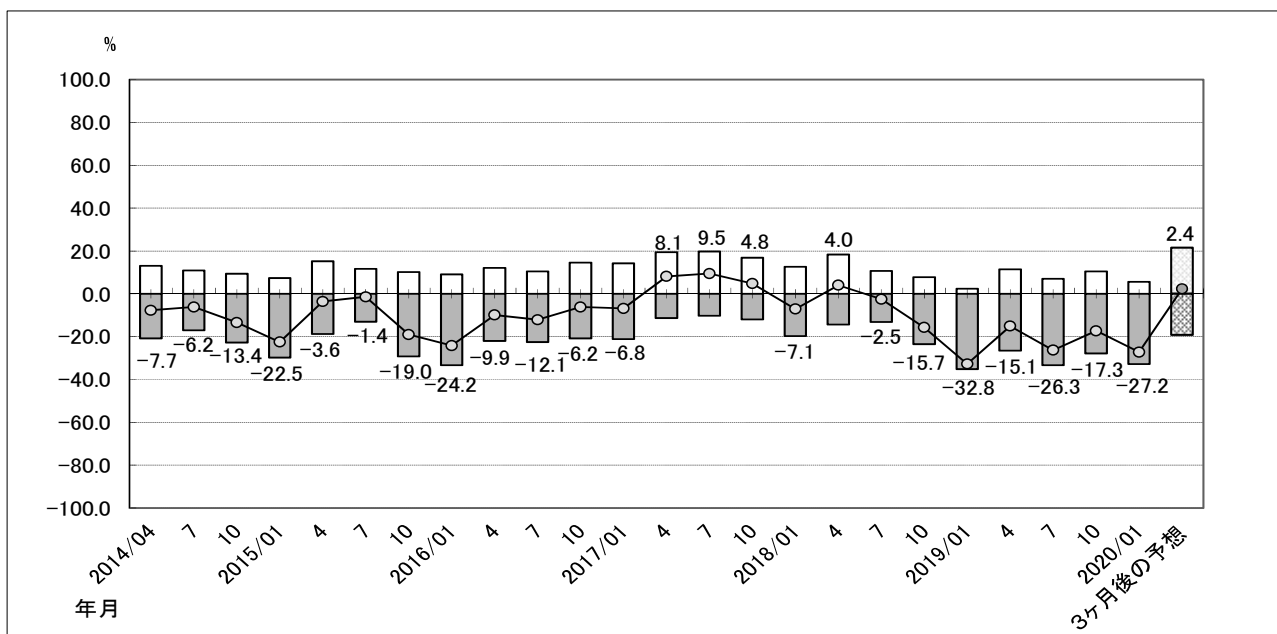


#### 4.収益性状況

回答全社の「3ヵ月前」と比べた収益性は「好転」企業 7.3%、「悪化」企業 29.3%で、同DIは△22.0 と前回調査時の△20.0 からやや悪化した。製造業は△27.2 で前回の△17.3 より 9.9 ポイント悪化し、非製造業が△12.1 で前回の△25.8 より 13.7 ポイント改善している。回答全社の「前年同期比」は△30.4 で、前回の△33.8 よりやや改善している。「3ヵ月後」の予想DIは、製造業が 2.4 で前回の△13.6 から改善し、非製造業も△4.5 で前回の△17.7 から改善している。回答全社では 0.0 で、前回の△14.8 より改善した。

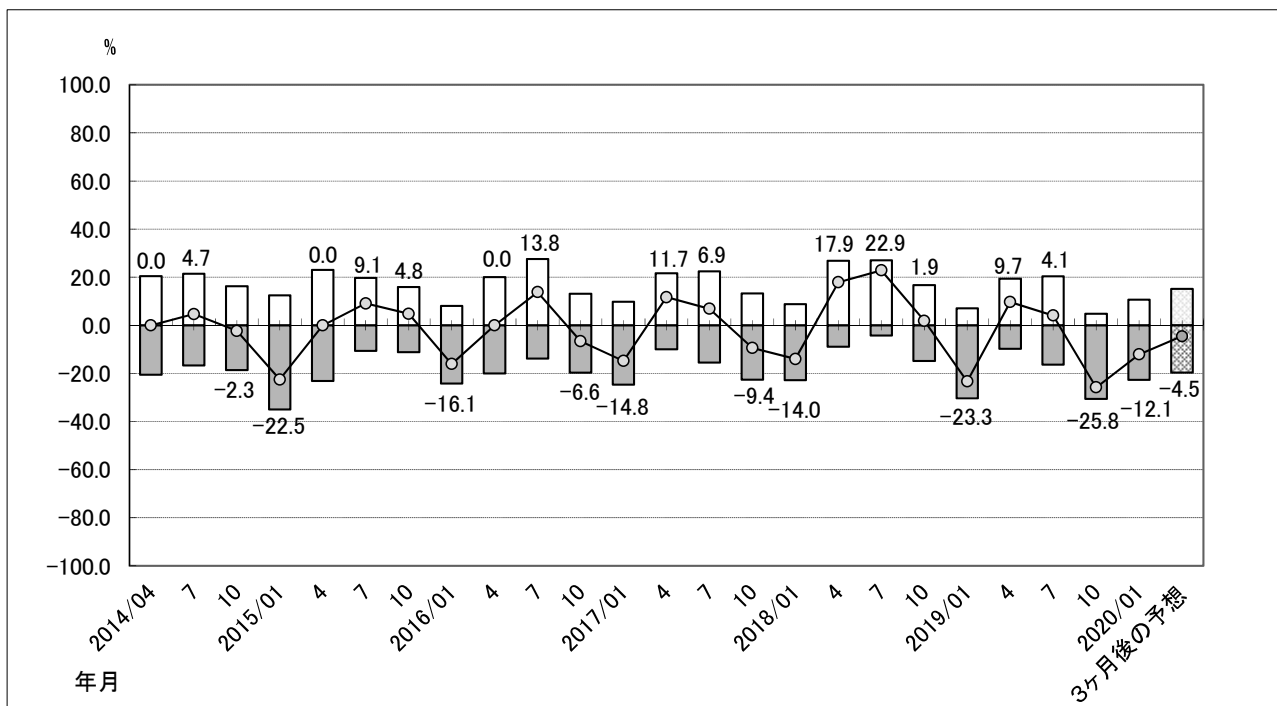
●製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー12



## 5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は売上減少と労働力確保②商業は売上減少と労働力確保③建設業は労働力確保と売上減少④観光・サービス業は人件費と労働力確保となっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	113	74	21	13	5
単価引下げ	17	16	1	0	0
競争激化	49	29	10	8	2
資金繰り	41	25	7	4	5
人件費	53	33	10	4	6
労働力確保	81	47	15	13	6

## 6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率【12月】	ハローワーク諏訪	1.41倍	△0.40ポイント
手形交換高【1月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	4,450枚	△716枚
	金額	5,862百万円	△1,279百万円
	うち不渡り発生状況	枚数	0枚
	金額	0千円	0千円
車庫証明取扱件数【1月】(諏訪地方合計)		856件	5.6%
新設住宅着工戸数【2019年4月～12月】(諏訪管内)		896戸	0.6%

## 7.調査概要

DI調査:業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 2020年1月末。
- ② 調査内容 「2020年1月末」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
- ③ 調査方法 DI調査および約130社のヒアリング調査。
- ④ 回答企業数 191企業。
- ⑤ 回答率 76.4%。

DI調査状況

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	160	40	30	20	250
回答数	125	31	23	12	191

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は  
諏訪信用金庫 総務部へ  
電話 0266-23-4567